

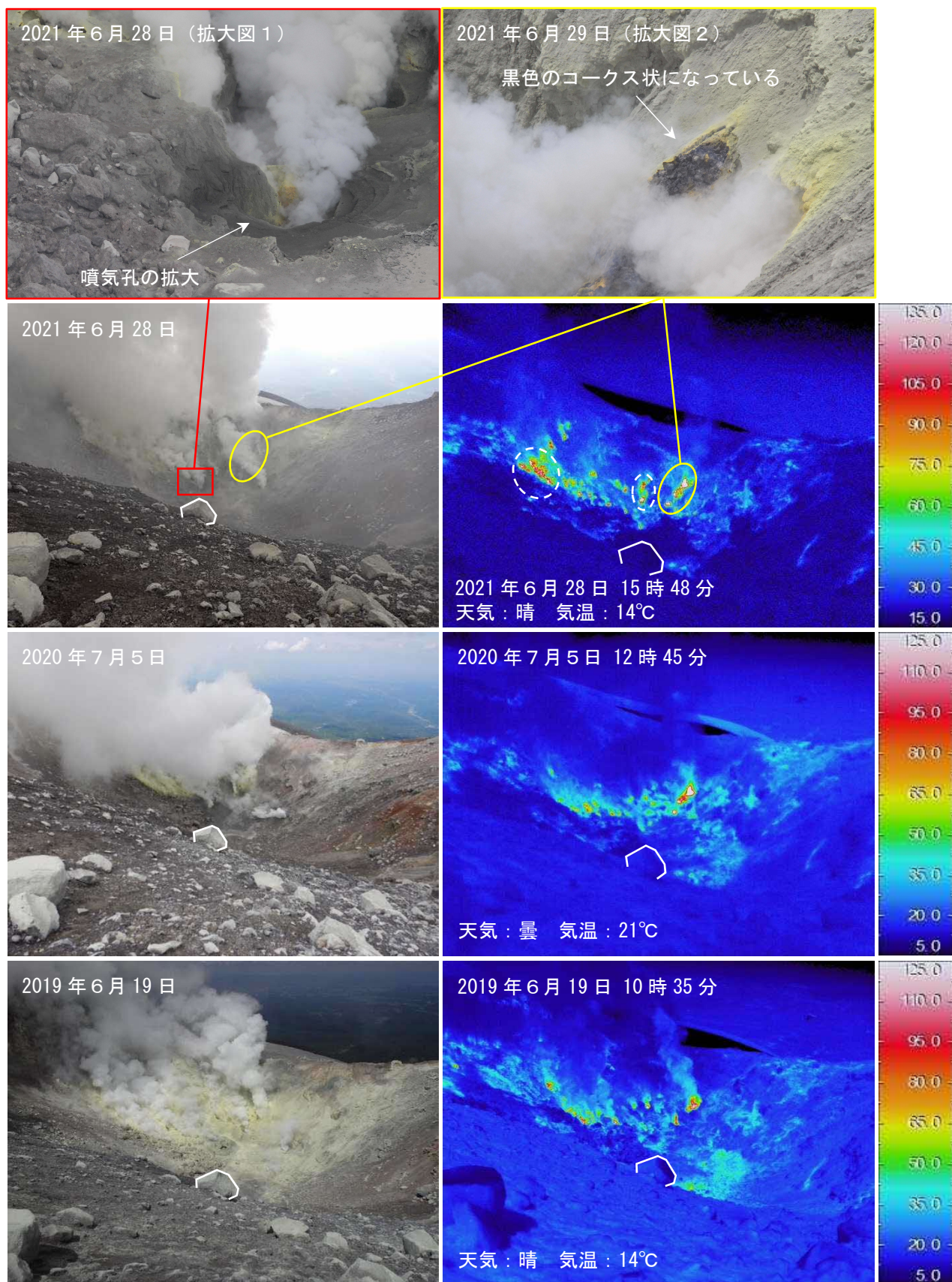


図 6 十勝岳 62-2火口内の状況及び赤外熱映像装置による地表面温度分布

拡大図 2 は北東側 (図 5 の②) から撮影、その他は南東側 (図 5 の①) から撮影
図中の白色実線は、同一の転石の輪郭をトレースしたものです。

- ・ 2021 年 6 月の現地調査で、62-2 火口底中央部の活発な噴気孔の拡大が認められ (拡大図 1)、一部の噴気孔ではその内部が黒色のコークス状となっていました (拡大図 2)。
- ・ 過去 2 年間の観測 (2019 年 6 月、2020 年 7 月) と比較して、一部の噴気孔 (白破線内) で噴気量の増大などの活発化が認められました。

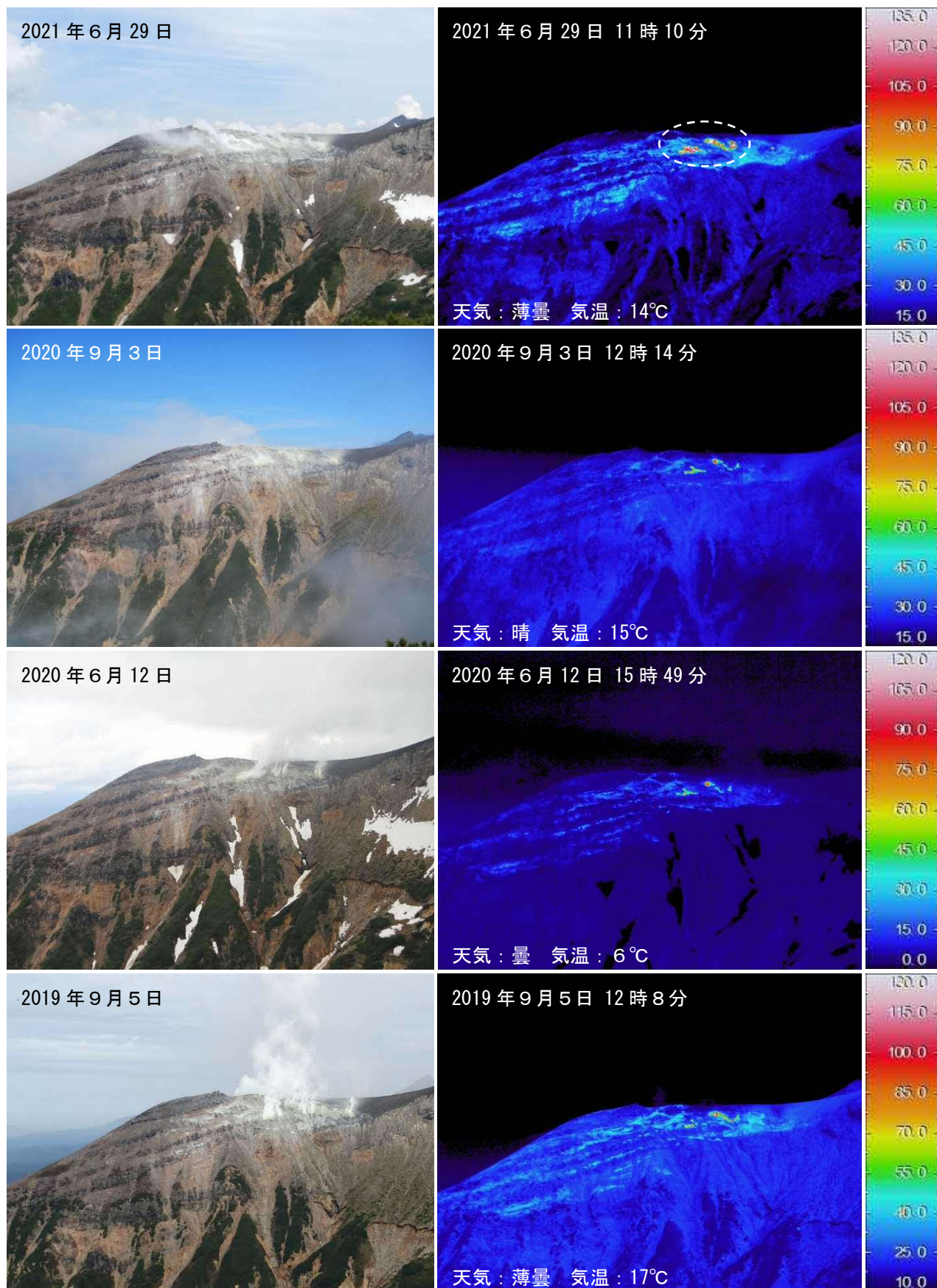


図 7 十勝岳 赤外熱映像装置による振子沢噴気孔群の地表面温度分布

南東方向の三段山（図 5 の③）から撮影

- ・ 過去 2 年間の観測（2020 年 9 月、6 月、及び 2019 年 9 月）と比較して、噴気温度の上昇や活発な噴気孔の周辺（白破線内）での地熱域の拡大が認められました。

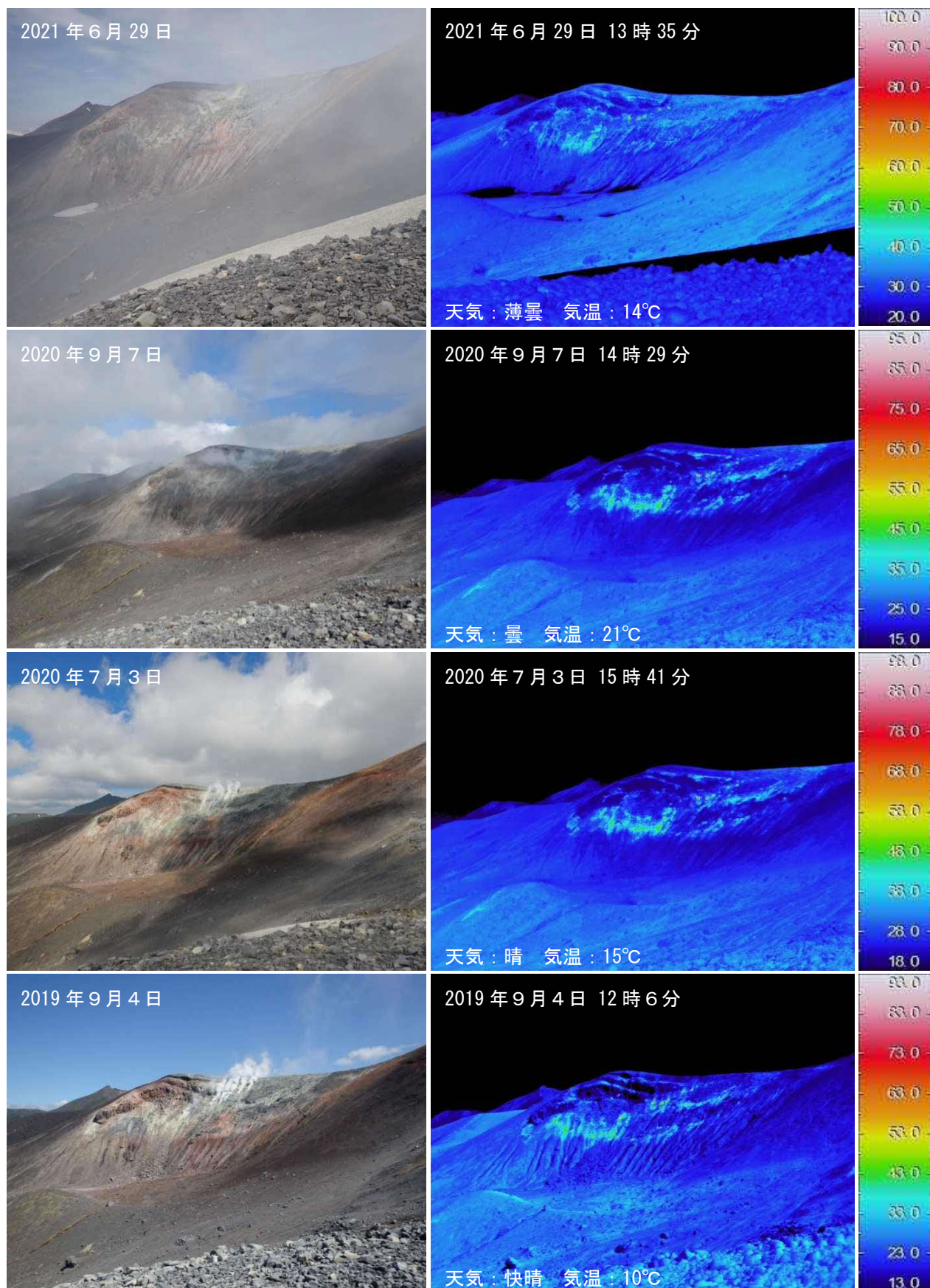


図 8 十勝岳 赤外熱映像装置による大正火口東壁の地表面温度分布

南西側(図5の④)から撮影

- ・前期間(2019年9月)の調査時と比較して、地熱域の状況に特段の変化はなく、引き続き活発な噴気活動が認められました。